ワークショップで銀板設置の際の注意事項を話し合う

任意団体　日本インドネシアNGOネットワーク

インドネシア共和国東ジャワ州 シドアルジョ県における熱泥流事故における 被害者住民を主体とした 健康調査及び大気調査の実施

一般助成
1年目
知識の提供・普及啓発

活動の中心となる住民によるコアチームの形成	大気汚染モニタリングの手法を学ぶオンサイト・ワークショップの開催	活動の全体目標に対する達成度
5チーム	4回	30%

課　題

2006年に発生した熱泥流は今も周辺12か村を飲み込んだまま続いているが、噴出する有害物質による住民の健康被害は実態が明らかではなく、治療の対象になっていない。

活動内容

- 既刊の環境データ及び地図情報の収集とエコチェッカ6基を設置して大気汚染の基礎データを収集
- 被害住民を中心に五つのコアチームの形成
- コアチームの活動をサポートするため、環境、健康、社会影響の各専門家によるアドバイザリー・チームを形成
- 住民主体の大気及び健康被害モニタリングのためのオンサイト・ワークショップを4回開催
- 住民、専門家、行政、メディア、NGOが参加する合同ワークショップの開催

住民、行政、メディア、NGOが参加した合同ワークショップ

今後の課題

健康被害に関する論文や情報の不足。今後はより簡便な質的調査票を作成し、住民の手でデータ収集・蓄積を行うと同時に健康被害のデータをマッピングし、大気汚染モニタリングの結果と重ねることで補う予定。

成果と工夫したポイント

成果

・職業等の属性別に住民14～20名によるコアチーム五つを結成した。
・住民、専門家、行政、メディア、NGO38名が参加する合同ワークショップを開催し、問題が共有化された。

工夫

ワークショップで住民の主体的参加を促し、彼らの意見や利害を活動計画に積極的に組み込むよう心掛けた。